

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200112		
法人名	有限会社 さかがわ		
事業所名	グループホーム椿		
所在地	熊本県上天草市龍ヶ岳町高戸1237-15		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

総合病院や、東天草分署、龍ヶ岳支所といった公共施設からほど近い立地でありコンビニや神社、漁民家に囲まれ住み慣れた環境。
ホーム内は、自宅に居るような生活空間で車椅子でも安全・快適です。各居室には、床暖房を備え乾燥とウイルス対策しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の4ヶ所目の地域密着型事業所として昨年7月に開所したホームは、町家の『椿』を名に取り入れるなど、これまで培ってきた高齢者介護の経験を地域に貢献していきたいという代表者の思いが現れている。馴染みの漁港を目の前に、職員は入居者の笑顔がこぼれ、我が家にいるような温もりを感じてもらえる支援に取り組んでいる。系列のホームで経験を積んだ管理者は、職員も楽しくなる職場環境でなければ、入居者の笑顔は引き出せないと言語、個々の職員の特技や持ち味を発見することからスタートしている。また、入居者と家族との関係が途切れないよう、面会の際も「せっかくなので会いに来てくれた！」という思いをもって大切な時間となるよう努めることが重要性としている。その日の朝揚げがった地魚や海山物が並ぶ昼食、自宅で楽しんでいた晩酌を変わらず楽しめる環境、地元の祭りを我が家にいるような雰囲気を楽しめるリビングの作りなどなど、入居者のこれまでと変わらぬ生活を引き続き支援しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、地域密着型サービスの意義をふまえて地域に寄り添えた内容でリビング内にかかげそれを日々念頭におき共有し実践している。	入居者が慣れ親しんだ地域の中で、引き続き穏やかな生活ができるようホーム名に町花『椿』を取り入れている。理念は地域密着型の意義を踏まえたものを開設時に職員で検討し、申し送り時の復唱やミーティングの中で、理念に沿ったケアとなっているか振り返りを行っている。	理念は共有を図るためにリビング内に掲示されている。今後は事務所やタイムカードが置かれた職員の休憩室に掲げることで、気持ち新たに業務をスタートできると思われる。検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催のカフェへの参加。外出、散歩時近所や知人の方との挨拶、会話で交流につなげている。	コンビニ・神社、漁港などの立地環境を活かしホームは日頃から散歩や散策・買い物など、地域へ出かけ、近隣者と触れ合う機会を持っている。また、地域主催のカフェへの参加も交流やホームを知ってもらうことに繋がっている。地元行事にも積極的に参加し、男性職員が秋祭りの獅子舞保存会のメンバーの一員として地域行事を継承していくために一役を担っている。	今後は地域の認知症の方や家族を支える介護事業所として、講座の開催や体験学習の場として積極的に開放していきたいとしている。取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後の課題として、体験学習や講座など積極的に行っていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の度に、詳しくサービス内容等にも報告し評価に対する取り込みも地域の方々からご意見頂きより良い改善に向けて努力することが出来ている	地域や家族代表者、協力医療機関、行政などの公的機関(市役所・消防団・分署)などをメンバーとし、昨年10月を1回目として2ヶ月ごとに会議が開催されている。サービス状況の報告の後には、積極的な意見交換が行われている。報道ニュースを受けての不審者対策や、消火訓練での指摘など身近な内容で進められており、サービスの向上に活かされている。	会議への家族の参加は1名のようにあり、今後は記録の開示等検討いただきたい。また、今回の外部評価についても、限られた時間であるため、内容を絞るなど工夫し参加者に報告されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の度に、活動報告を報告している。分からない時は、役場にお尋ねしご指導頂いている。これからは、行政との連携を詰っていく。	行政からは運営推進会議への参加が得られており、ホームの状況は資料をもとに説明を行い、質問やアドバイスを受けている。また、書類提出など必要に応じ、直接役所を訪れる機会もあり、常に近況を伝えるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に身体拘束の研修会を行っている。玄関には、センサーが設置してあり出入りが分かり見守りも重視している。日中臥床時や入床時には拘束を配慮しセンサーを設置し対応している。	身体拘束や虐待については、ミーティングの中で報道ニュースなども含め事例を出して研修会を行っている。また、職員のストレスも影響を及ぼすことを運営者や管理者は十分認識し、働きやすい職場環境に努めている。自身の振り返りとして、チェックシートも活用していく予定である。帰宅願望の方にも決して、欲求を拒むことなく職員と一緒に散歩したり、職員は様々な角度から本人に語りかけたり、時間は要しても自然に落ち着かれるよう努めている場面が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時虐待防止についても研修会を行い虐待となるケアにならないように勉強している。又自分達のケアが虐待につながっていないか振り返り話し合いをもっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング等で権利擁護に関する制度に対してマニュアルによって周知を深めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、重要事項・契約書類等で説明している。不安や疑問点の質問にこたえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、ご家族様との連絡役に徹底しご意見を頂けるように声かけしている。ご意見箱の設置をしている。	入居者の要望は普段の会話の中で聞き取り確認している。行きたい場所や食べたいものなどが中心であり、可能な限り実現できるようにしている。家族については、「せっかく会いに来てくださった！」という思いをもって、面会時にはホールや居室などでゆっくり過ごしてもらったり、何でも話しやすい雰囲気を大切にしている。玄関に意見箱を設置しているが活用には至っていない。外部の相談窓口については入居時に説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3月に個人面談をおこない業務改善、サービスの質の向上について意見交換する。	管理者は代表者と連携を図りながら意見が出しやすく、働きやすい職場環境に努めている。ミーティングをはじめ、共に業務に当たる中で気づいた事は何でも言って欲しい旨を伝えている。幅広い職員の年齢層(20~60代)を活かして、ホームは和気あいあいと入居者のペースでケアが進められている。必要な物品などは開設後に気づくことも多く、職員から出されるそれらの要望については、順次購入されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3月より、個人面談をおこない、評価シートを作成し、管理者により評価し処遇改善手当などに反映させて意欲向上を図っている。また、研修への参加も促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用基準は公平におこなっている。また、職員の資格・研修参加に伴う勤務調整など、職員間において協力的におこなうことができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連絡会への活動を通して、研修会・しんぼく会へ参加し、情報交換を行っている。また、今後も参加部会を増やしていく予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面談などで収集した情報と家族からの情報を集約し、入居後は要望などを常に声かけし情報にない言動があった場合は家族に連絡するなど迅速な対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と家族が密に面談や連絡を行い家族の思いとの間にギャップが出来ないように努めている。また、面会に来やすい雰囲気作りにも配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話の中から必要と感じた場合は地域包括センターなどに相談しアドバイスしてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器の後片付けや生花、掃除、洗濯物たたみなど、その方の力に合わせ一緒に行っている利用者の方より生花の基本を教えて頂き職員の中に共に暮らすという感覚がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には、付き添い話をする時間をもつようになっている。状態の変化時には、その都度連絡し必要があれば来て頂いている家族によっては、病院受診も定期的に同行してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域内での買い物、外出支援、馴染み方の面会等で声かけ、お話をされ、利用者だけでなく職員も一緒に喜びを感じている。	ホーム名が町花であることや、漁港を目の前にしている事は入居者にとって何よりの馴染みの環境である。船に携わる仕事をしておられた方は、海を見ると安心され、鮮度のよい刺身の提供は地元ならではの食事支援である。また、生花をされてきた方に花の準備をしたり、入居前からの晩酌を、体調と相談しながら好みの銘柄を好みの飲み方(お湯・水割り)で楽しむなどこれまでの生活を継続して支援している。	家族や知人による面会、馴染みの場所への外出など入居者の笑顔を職員も共に喜んでいる。これからも入居者にとって大切な人や場所、趣味やこだわりなど継続して取り組まれることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でも、お話が弾まれる様に席順、ソファの配置を考慮し配置している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションがとれる方には、本人に直接尋ね把握に努めている。困難な方は、本人が今どのように過ごしたいのかを考慮しケアプランを作成している。	本人の思いや意向がプランに反映できるよう、直接確認したり、意思表示が困難な方については、語りかけ、顔の表情でコミュニケーションを取りながら汲み取っている。また、家族の訪問も多く、面会時などに本人の気持ちや気づかれたことなどを聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族を中心に聞きとりをしている。以前、介護サービスを利用されていた場合は、担当していたケアマネージャーや、施設職員などからも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	開設したばかりで全ての入居者さんが入居間もない為、現状の把握を一番に考慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族より聞いた事より、介護計画を立案。その内容について記録、担当職員より聞き取りし、内容を訂正している。	計画作成担当者は、職員へプランについて取り組みや支援方法などwo話したり、夜間時の様子を共有する時間を持っている。本人・家族・職員など関係者の意見や提案を活かしたプラン作成に努め、説明を行う際は、現状を伝えながらも家族がマイナスばかりに捉えてしまわれることのないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った記録の内容が少なく、経時時な記録になっているので、今後は少しずつ改善を行っていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開設間もない為、サービスの多機能化までは取り組めてないが、これからは、少しずつ取り組む。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを積極的に導入したり地域で行われている老人会や敬老会の参加を行っていききたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の連携病院の医師と個別に希望された医師との連携が図れている。	入居時にホーム近隣の協力医療機関について説明を行い、現在は緊急時や受診の利便性などから本人・家族の了解のもとかかりつけ医とし、定期受診を支援している。今後、高齢や重度化の状況は否めず、家族がホームでの看取りを希望されることもあり、往診対応を望んでいる現状である。日常の健康管理は、看護職員が中心に行っており、入居者への健康面で職員が質問を行う場面が見られた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に正看護師1名勤務24時間何かあればすぐに状態報告し指示を貰い介護職の不安の軽減になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から連携医療機関と定期的に面談し良好な関係が作れている。早期退院に向けては、地域包括との密な相談・連絡が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・主治医・管理者が情報共有し密に連絡をとり十分なケアが実現出来ている。	入居時に重度化や終末期についてホームの方針を説明し、必要な時点で主治医を交えて家族の想いを確認し、看取り同意書を交わしている。本人・家族の意向があれば最期まで支援したいとしている。開所して間もないホームであり、これまで看取りは行われていない。	入居者に今できる支援を大切にしていきたいと管理者は語っている。今後も入居者に最良の時間を継続いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の消防支所での救命講習を受け応急の方法や、対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ミーティング時に避難経路、場所等確認している。近隣の方にも参加を促し参加してもらった。	昨年7月の開所からこれまでに1回の避難訓練、ミーティング時に避難経路や場所の確認、遅出職員によるガスの元栓や喫煙スペースの安全点検を行っている。災害備蓄としては、水・米・缶詰・インスタント麺などを確保している。避難訓練では近隣者にも参加を促している他、ホーム関係者の消防隊員への所属、地域消防団による年末夜警など、近隣・地域の協力体制も図られている。	今回の熊本地震では地域に大きな被害はなかったものの、昨今の自然災害は予測不能でもある。海を望める風光明媚な場所であるが、津波をはじめ、今後様々な自然災害についてもまずは机上訓練など有事に備えていかなることが必要と思われる。取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令的な言葉を使用しない様に又その時その方に合わせ尊敬・丁寧語で言葉を行っている。	入居者への言葉使いや対応は、尊厳に配慮し失礼の無いように職員間で周知を図っている。呼称は苗字や下の名など家族にも確認し対応している。管理者は馴れ合いの言葉使いが気になることもあるとし、今後も気づいた事は指導を行っていきたいとしている。職員の守秘義務については、入職時に書面をもとに指導されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の話をゆっくりと傾聴しその思いを言葉にしてもらいかなえる様に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全利用者の希望は日により添うことは出来ないが散歩やドライブに外出し気分転換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時等にその日に合わせ気持ちよく着衣して頂く様に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に摂取しながら利用者の方の好みの食べ物を聞きとり近日中に提供し食事後の片付け、食器洗いを手伝いしてもらっている。	入居者の希望や旬、地元ならではの料理を献立に取り入れている。魚を好まれる方が多く、刺身や煮・焼くなど種類に応じて調理している。あおさや茎わかめ、めかぶなど慣れ親しんだひと品は好評のようである。身体状況に応じ食形態も検討しており、ぜんざいも喉つまりのないよう、白玉で対応している。入居者が食事作りに関わることは少ないが、下膳や食器洗い、味の評価などできることで食への関わりを持ってもらっている。	職員も同じ物を一緒に摂りながら、食事を楽しむ光景が見られた。郷土食や誕生会、行事食など好評であり、今後も入居者に楽しみとなる食事支援の継続に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食間に水分補給し、おやつ時に好みの物なるべく提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立に応じて声かけや介助しながら口腔ケアをしているが介助するもスムーズにケア出来ない方がいるので声かけなどの仕方を変えて介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の日々排泄状態を知り食前や食後、就寝前にトイレへ誘導し失禁を減らす様に行っている。	排泄パターンや状況を職員間で共有し、個々に応じた声かけや誘導、排泄用品の検討を行っている。医療機関から入居された方も、リハビリパンツから布パンツ使用になられた方もおられる。排泄用品はホームで準備している。夜間のみポータブルトイレや尿器を使用する方もおられ、使わない昼間は日光干しにより清潔に管理している。トイレ内にはカーテンの設置などプライバシーへの配慮が見られた。	居室内で保管されている排泄用品については、クロスをかけるなど職員の一と工夫に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体調の変化を知り、水分補給、排便を促すようにおやつ時に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間を勤務体制もあり午後の2～3時間内に実施しているので希望に添えないので今後は、勤務体制の変更を考えている。	入浴は昼食後を中心に、同性介助の希望にも努めながら週3回の支援を行っている。拒否が続かれる方もあるが、無理強いせず清拭や着替えで対応している。今後、高齢化や重度化も予測され、職員の腰痛への負担も考慮し、特殊浴を設け安心・安全な入浴支援に取り組んでいる。家庭的な浴槽ではないために、マンツーマンで会話を楽しみながら支援にあたるようケアマネジャーが伝えている。冬至の時期には全員が入ることができるよう、3日間実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠やお手伝い後の疲労感あり。休憩要望時には居室への声かけを促し休憩を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の服薬の変更を確認しその後の病状や状態に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の特性を知り要望や訴えで対応しているがその日の体調次第で思うように気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中に外出の要望に合わせて行き先を決定し了解とり出掛け途中行って見たい所の希望があった時には変更する様に行っている。	入居者の希望を確認しながら午前・午後、状況に応じて外出を支援している。普段は個別で漁港に海の様子を見に出かけたり、近くのコンビニエンスで晩酌の品を購入、必要な物品を取りに自宅へ帰るなど個別支援で対応している。この春にはホームを開設し初めての桜の花見を予定している。正月に帰省をされた方もおられ、今後も家族や地域の協力を得ながら外出の機会を持ちたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金の必要性を確認してもらい了解を取り本人購入希望があった時には職員同行にて買い物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より電話があると現在の状態報告を行っている。利用者様からの要望がある場合にも、事前に家族様からの了解を得ての電話対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花を飾り楽しんで頂き段差等なくいつも清潔を心がけ掃除等を行っている。	地域の人々が気軽に訪問したり、入居者が地元の秋祭り『獅子舞』を間近に楽しめるようリビングは掃き出し窓に作られている。ホールやトイレ、居室は床暖房を備え、乾燥を抑えた環境に努めている。自宅にいるような生活空間を掲げており、調理の音や匂いを間近に感じることができる。ホーム内には入居者の生けた花や、外出・イベント時の写真、近隣の方から提供された絵画などが掲示され和やかな空間となっている。	洗面台は手洗いや口腔ケアなど入居者の衛生面や整容を支援する場でもあり、不要な物品については、別の場所で管理することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の状態に合わせて居室内にて過ごして頂いたりリビング内では、歌番組や他者とのおしゃべりお手伝いなどして頂き好きな様に楽しんでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやタンスなど以前使われて居た物を使用して頂き自宅同様に過ごしていただいている。	居室はフローリングや畳の部屋が設けられている。入居時に床暖房やハンガーラックが備わっていることを説明し、以前使用されていた家具や物品を持ち込まれると安心されると伝えている。使用されていた家具を持ち込まれることは少なく、衣装ケースなど新しい物を購入される方が殆どの方である。職員は換気や掃除の他、天候の良い日は布団干しやシーツなどの寝具も清潔に管理し、心地よく安眠できるようにしている。衣類の管理は収納スペースも限られており、家族に依頼している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の目の行き届く範囲での作業やレクリエーションを実施し利用様がやりたい事、したい事を優先している。		